

沿道景観の貢献要素に関する考察 - 2

(美術教育講座デザイン研究室) 千代田 憲子

A Study on Elements which Contribute to Rordside Scape -2

Noriko CHIYODA

(平成 26 年 6 月 16 日受理)

1. 研究の背景と目的

本研究は、景観に関わる問題について関係者と地域住民間の共有化を容易にすることと沿道景観への理解促進を通して、良好な景観形成に寄与することを目的とする。前稿(注1・2)に続き、地域において長い年月の蓄積を経て形成された景観である生活景[生活の営みが色濃く滲みだした景観、地域風土や伝統に依拠した生活体験に基づいてヒューマナイズされたながめの総体](注3)に着目する。

筆者の授業で行っている「好ましいと感じる景観」に関するレポートにおいても、学生が生活景にあたる事例を取り上げる頻度は高い。ハイセンスでスタイリッシュな景観事例が少ない地域ではあるが、若年層が生活景に好意を感じることは、今後の景観形成に対する示唆に富んでいる。また、「景観」は冷たくて「風景」は温かい言葉だと評されることも多い現状を反映もしている。

本稿では、予備調査(注1)に引き続き「山苞の道」(注4)を対象として、沿道景観に大きな影響を与えている生活景をはじめとする景色を観察してキーワードを抽出する。キーワードを感性的表出としての言語表現(注5)と捉えて、集積したものを分類し、その視覚化を通して沿道景観の貢献要素の種類と課題を導き、連続性に関して検討する。

2. 研究・調査の方法

2.1. 調査・分析の方法

街路の撮影調査により選定した地点を観察して抽出さ

れたキーワードを分類し、視覚化を通して地点の特徴や沿道景観の貢献要素について考察し、連続性を検討する。

2.2. 調査街路の選定

調査街路は、福岡県久留米市田主丸町の通称「山苞の道」の全長約 4.4Km を対象とする。街路の北側が歩道整備されつつあるが、整備区間と未整備区間が混在する。

周辺は植木の産地であり、観光果樹園が並んでおり、観光と関連する施設やギャラリーも点在する。

2.3. 撮影調査の方法

まず、街路全体の把握のために久留米市中心側の起点から東に時速約 20 キロで走行中の車内より、ビデオ撮影を行う。次に 50 ミリレンズを用いて幅員方向の写真を 50m ごとに東向き西向きと交互に撮影する。歩道幅員のほぼ中央に立ち視高約 150cm で行う(注6)。

2.4. キーワード抽出の方法

参加者が自由に移動して考えながら選択するワークショップ形式により行い、記入された理由からキーワードを抽出する。

まず、現地のビデオを約 8 分流して、その間に対象街路の概略の説明を行う。次に撮影地 88 地点の西向きと東向きを配置した A 1 サイズのパネル(図1)に 6 枚ずつ配置した計 15 枚を一覧したのちに、景観に貢献(プラス)すると思われる 5 箇所を選びブルーの付箋にその理由を記入して該当箇所に貼る。同様に阻害(マイナス)と思われる 5 箇所を選びピンクの付箋にその理由を記入して該当箇所に貼る。選択する時間は約 30 分である。

2.4.1. 参加者(回答者)の属性

(1) 一般

2013年10月22日に男性53名と女性2名の総数55名(出席名簿記載数)の参加を得た。

(2) 学生

2014年1月22日～2月14日の期間に1から4年生の男性12名と女性34名の総数46名の参加を得た。2014年5月7日に2から4年生の男性35名と女性9名の総数44名の参加を得た。なお、前回の学生群と重複していない。



図1 掲示パネルの例

2.5. キーワードの分類方法

88カ所の調査地点ごとの票数とキーワード数を集計し、試行を繰り返して段階的に分類した。

2.6. 視覚化の方法

貢献要素に関する特徴や問題点の把握と比較を容易にして、連続性に関する検討を行うために適するグラフの試行を通して数種のグラフを作成する。

3. 研究の結果

3.1. 撮影調査の結果

撮影は、初夏の2013年6月にビデオ撮影と幅員方向の撮影を行い、追加調査を7月に行った。また、季節による比較のために2013年11月に幅員方向の撮影を行った際には、交差点部では立ち止まることを考慮して、南北方向の撮影も行った。

3.2. キーワードの抽出

前稿(注1)に続き、活発な言語活動は、調査地点への関心の高さが反映されたものとしてキーワードの数量に着目する。撮影時の地点や画角の若干のずれや日陰の量

により、気になるものが異なるという差異も多少生じた。

3.3. キーワードの分類と分析

3.3.1. キーワードの分類

付箋に記入された理由を短縮してキーワードとした。西向きと東向きをそれぞれ景観に貢献する地点と阻害する地点に分けて、一般と学生の表を作成した(表1)。表にNo.がないものは、貢献と阻害の両方に選ばれなかった地点である。票数より多くの理由が書かれている場合も多く、活発な言語活動といえる。重複するキーワードももれなく記入した。

景観に貢献する地点として選ばれた票数は、西向きの一般が77票で学生が124票となり、東向きの一般が43票で学生が100票であった。景観に阻害する地点として選ばれた票数は、西向きの一般が37票で学生が81票となり、東向きの一般が80票で学生が148票であった。ひとりが各5票を確実に選んでいないことも判明する結果ではあるが、景観に貢献する地点の票数は西向きの計が201票と多く、景観に阻害する地点の票数は東向きの計が228票と多く見られた。

秋に実施した学生の結果も同様に表を作成して、景観に貢献する地点の票数は、西向きが101票で、東向きが93票であった。景観に阻害する地点の票数は、西向きが95票で、東向きが100票であった。

また、分類は前稿(注1)を再考して、下記の7つとした。

- ①眺望・開放感 (見晴らし、明るさ、暗さなど)
- ②自然・植栽 (植物/山/生け垣など)
- ③道路整備 (歩道/電線/街灯などの公共整備)
- ④沿道要素 (建築物/塀/広告看板/サインなど)
- ⑤生活 (なりわい/賑わい/歴史/手入れ/駐車など)
- ⑥調和・色彩 (バランス/魅力/美しいなど)
- ⑦印象・心地よさ (雰囲気/イメージ/安心/安全など)

さらに、7つのカテゴリーを集約して、I)自然系(①眺望・開放感と②自然・植栽) II)ハード・人工系(③道路整備と④沿道要素) III)ソフト・感性系(⑤生活⑥調和・色彩と⑦印象・心地よさ)の3軸とした。

3.3.2. キーワードの集計・分類と比較

一般と学生のキーワードの数を西向きと東向きに分けて作成した(表2、表3)。貢献要素のキーワードの合計684で、阻害要素のキーワードの合計は577である。

表1 キーワードの分類 (西向き/一般の部分例)

No.	票数	貢献	貢献					票数	阻害	阻害								
			眺望・開放感	自然・植栽	道路要素	生活	印象・心地よさ			眺望・開放感	自然・植栽	道路要素	生活	印象・心地よさ				
1	2	生け垣・植栽の手入れが行き届いている 手が入えられている感じ 見る方を喜ませる	●	●	●	●	2	圧迫感がある 木が繁りすぎて通行しにくそう 道幅が狭い	●	●	●							
2	1	生け垣・植栽の手入れが行き届いている	●		●	●	0											
4	0						1	土が道路にはみ出している			●							
5	0						1	ガードレールの色(さび)			●		●					
6	0						1	奥からの車が見えにくい 事故					●					
7	3	モッコとした木 緑の壁のカーブが美しい 樹木の手入れがされている	●	●	●	●	0											
8	10	樹木の左右対称が美しい 手入れされた樹木 手入れされた樹木がすばらしい 手入れされた樹木 手入れされている 生け垣が整っている 公園の中を走っているような光景 樹木が整形されていて景観が良い 丸みを帯びた樹形に緑の優しさを感じる 木の手入れがすごい	●	●	●	●	1	手が入りすぎていて少しなえる	●			●						
9	2	歩道が広い あすまや(休憩所)がある あすまやが風景となじんでいる	●	●	●	●	1	電柱が邪魔			●							
10	0						1	荒地の活用を検討してはどうか			●	●						
12	2	道路・歩道がきれい 放置していない緑が多い	●	●	●	●	0											
14	3	周辺と調和した落ち着いた色合いの広告物 木製看板 看板が風景と適合している		●	●	●	0											
16	0						2	建物が歩道に出ている 歩道が狭い				●	●					
20	1	安心 安全				●	0											
24	1	自然石の排水路		●	●	●	0											
25	1	歩道が広く自転車道でも安全		●	●	●	0											
28	3	遠景(眺め)がよい 眺めがよい 手前の樹木もよい 接線が遠くて開放感があり落ち着く	●	●	●	●	0											
29	0						1	右側の歩道が無い 看板も多い 自転車を通る時危険			●	●	●					
31	0						7	旗 広告物がいらぬ 旗が周りの線に合っていない のぼり旗が邪魔 宅急便の旗、のぼり 旗が目立ちすぎ			●	●	●					
35	1	風景と建物が調和している			●	●	0											
38	1	沿道が全体的に清掃されている				●	0											
41	2	防護柵のラインがきれい カーブに樹木のフェンス		●	●	●	0											
44	0						1	景観配慮の転落防止柵に看板が残念			●							
46	1	電柱、電線が田舎の生活通りの雰囲気		●	●	●	0											
48	4	曲線と程よい緑が懐かしくほっとする 両側の木々がトンネルのよう 曲線的な道の風景が良い 自然のままの樹木(癒し、田舎) 整備された道でない	●	●	●	●	0											
50	0						3	看板で見たいものが見えにくい 美しい山並み看板が看板で損なわれた 看板がタヌ	●		●	●						
51	5	60から出てきたときの眺望として感動的 緩やかなカーブの先に山並みが見える 視界が広い スケール感がある のどかな 開放的 展望	●	●	●	●	0											
52	1	画側の樹木がきれい	●	●	●	●	0											
53	4	緑の中に吸い込まれるようなドキドキ感 石垣の家がなつかしさを感じる 石垣と周囲の緑が合っている ほっとする田舎の道 石垣と古民家と緑の調和	●	●	●	●	0											
55	0						1	墓が目に入る				●	●					
56	0						1	資材放置が気になる。見えないように				●	●					
57	1	何となく整った森と田舎道の相関関係がいい	●	●	●	●	0											
60	0						1	駐車場の周囲に植栽をしては			●	●						
66	4	生垣が美しい 道がきれい 手入れされている 山の緑と住宅の緑の調和	●	●	●	●	0											
68	0						3	ガードレールと柵の不一致 ガードレールと柵の不一致 ガードレールの統一・電柱			●	●	●					
69	2	ガードパイプが景観ブラウンで風景にマッチ サイクリングに良さそうである		●	●	●	0											
72	0						2	右側の植栽が手入れされず車道を圧迫 雑多・人工物	●	●	●	●						
74	3	広告物の雰囲気が良い 控えてかわいい看板(屋外広告) 看板が風景と調和している		●	●	●	0											
75	1	右奥にみえる家が緑と調和している	●	●	●	●	0											
77	7	美しい石垣 石垣が長く続き後方の山並とマッチして、流れ のラインが景観上いい 積線と石垣の2つのラインで景色が 構成され印象的 石垣が良い 石垣が美しい 石垣があり、その上が何もなく開放的 植栽の手入れが良い、石垣でいい	●	●	●	●	1	石垣と背景の山の調和がよいだけに ゴミの山らしきものが残念				●						
79	7	緑の多い中を歩いて、目に付く緑が良い 生垣 木が手入れされている ブロックやフェンスでなく「生垣」 手入れされている 手入れされている木 手入れされた木々 緑が緑中での整えられた紅色は新鮮	●	●	●	●	0											
80	0						1	生活感が出ている				●						
81	2	看板にカメラを使っており周り合っている 看板が調和している		●	●	●	0											
82	0						2	山の景観を阻害する電信柱 見たいものを邪魔している	●		●							
83	0						3	建物の外観がよくない 自然景観にそぐわない建築物 建物、電柱			●	●	●					
87	2	山並みと果樹園の樹木ラインの同調性 山並みが美しい	●	●	●	●	0											
計	77		12	40	10	25	27	18	31	37		4	4	13	20	8	7	3

西向きと東向きに多い。

なお、秋も同様にキーワードの分類を経て西向きと東向きに多いキーワードの合計 278 で、阻害要素のキーワードの合計は 280 である。貢献要素と阻害要素のキーワード数に初夏のような差はなく、分散傾向が強かったことも要因と思われる。

また、キーワード計に占める分類項目の割合は、初夏の貢献では、西向きと東向き共に②自然・植栽と⑦印象・心地よさが 20%を超えているが、秋は③道路整備と⑦印象・心地よさが 20%を超えている。また、初夏の阻害では、③道路整備と④沿道要素が多く、東向きでは⑥調和・色彩も多い。秋は、⑦印象・心地よさも多くなっている(図2)。

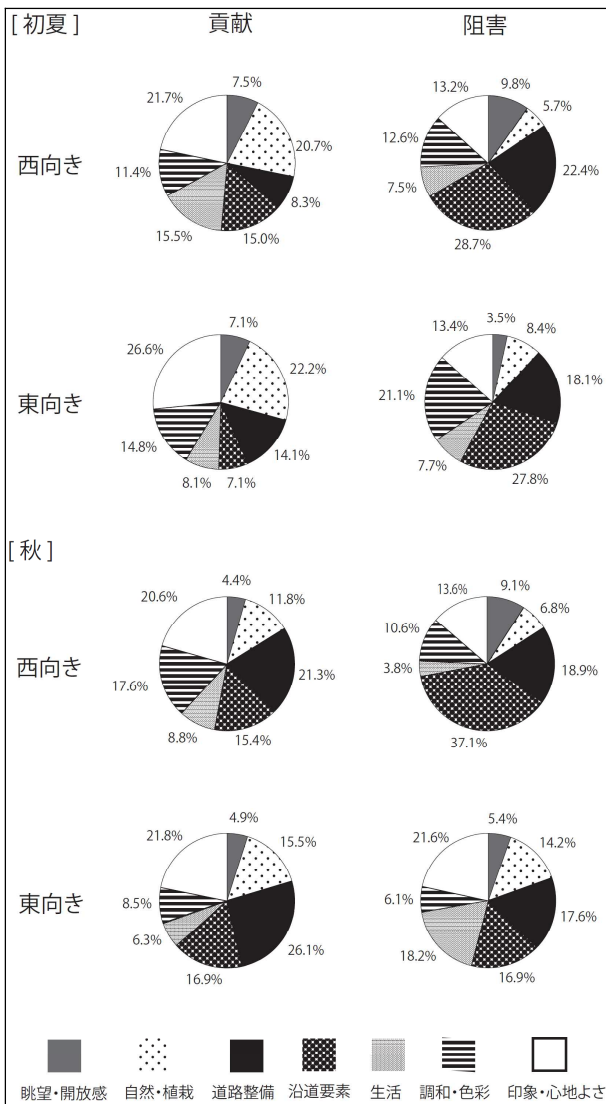


図2 キーワード計に占める分類項目の割合

詳細に見ると、歩道整備がなされた区間は、整然とした印象が好感を持たれており、自然と緑が豊かな景色に電線やコンクリート壁など、異素材の人工物が混在して目立つことが阻害要素につながっている。なお、歩道の柵は評価が高いが、写真では偽木が木製と判断された場合もあるようだ。沿道の大木や花と古びた石垣も好評であった。

3.4. 視覚化の検討

キーワードの数と分類に基づいたレーダーチャートを作成して地点の特徴を視覚化して比較検討を行うために、まず、景観に貢献する地点と阻害する地点の票数による一覧表(表4・5)を作成し、秋の分も同様に作成した。

西向きと東向き共に貢献・阻害地点にあたらない 0 の地点は、全 88 カ所のうち一般で 15 カ所、学生は 1 カ所であった。西向きで貢献・阻害地点にあたらない 0 の箇所は、一般で 28 カ所、学生は 7 カ所であり、東向きで貢献・阻害地点にあたらない 0 の箇所は、一般で 20 カ所、学生は 3 カ所というように、学生集団は分散傾向にあった。これは、実施日程が分断したために既に付箋が貼ってある場所を意識的に避けたり、他に追従したくないという若年層らしさが表出した側面でもある。

票数は突出したものもあったが、5 票を票数が集中しており要素が豊富と考えられる目安として 0・1・2・4・5 以上と 4 つに区分した。

3.4.1. レーダーチャート作成によるパターンの類型

票数が集中しており要素が豊富と考えられる 5 票以上の地点についてレーダーチャートを作成したのちに、一般と学生共に 5 票以上の 5 カ所についてまとめた(図3)。秋との重複は 2 カ所のみであった。キーワード数 0 を挟んで貢献要素のキーワード数をプラス 1 / 2 ~ 4 / 5 以上とし、阻害要素のキーワード数をマイナス 1 / 2 ~ 4 / 5 以上として配置した。レーダーチャートの外側がプラス 5 以上である。

レーダーチャートを比較してまず 4 つのパターンに分類した。

- A) 貢献要素 有 阻害要素 無
- B) 貢献要素 有 阻害要素 有
- C) 貢献要素 無 阻害要素 有
- D) 貢献要素 無 阻害要素 無

さらに 5 票以上の地点(表4・5 と図3 参照)のレーダー

表4 貢献・阻害箇所(一般)

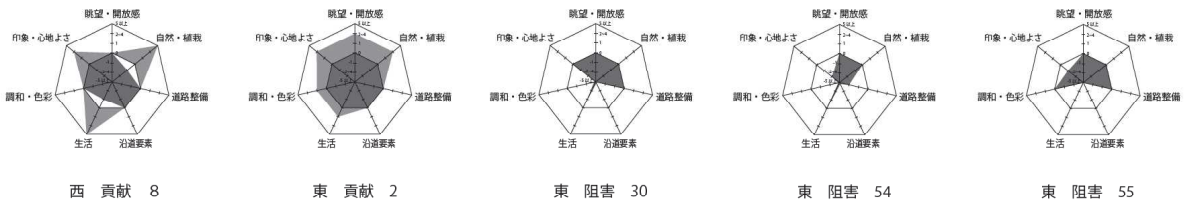
	西					東																																	
	貢献No.		小計	阻害No.		小計	貢献No.		小計	阻害No.		小計																											
5以上	8	51	77	79	4	31	2	36	2	30	45	54	55	4																									
2-4	1	7	9	12	14	1	16	50	68	72	22	33	37	49	50	22	25	31	40	44	48	51	61	62	77	12													
1	2	20	24	25	35	4	5	6	8	9	6	13	15	16	27	4	8	12	18	19	24	33	38	41	43	44	46	58	67	68	73	79	81	83	85	8			
計	4	5	6	10	16	2	7	12	14	20	4	8	12	18	19	2	6	13	15	16	27	36	37	47	49	50	52	63	65	72	78	84	13						
0(貢献・阻害共)	13	15	18	19	22	27	30	33	36	37	1	5	7	9	10	14	20	28	29	35	40	43	45	47	49	54	58	61	62	63	65	67	73	78	84	85	86	88	28
0(西東全て)	3	11	17	21	23	26	32	34	39	42	59	64	70	71	76																					15			

表5 貢献・阻害箇所(学生)

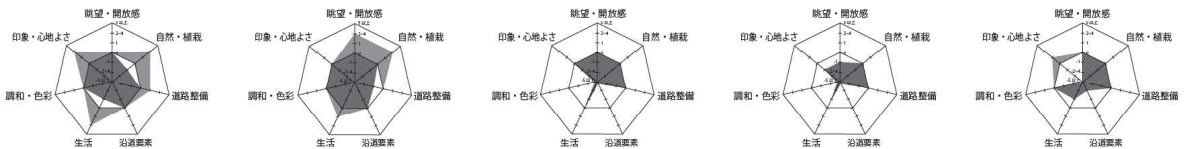
	西					東																																												
	貢献No.		小計	阻害No.		小計	貢献No.		小計	阻害No.		小計																																						
5以上	1	8	41	53	64	1	74	2	22	51	19	30	54	55	58	6																																		
2-4	2	7	9	19	20	4	5	18	19	21	5	7	11	15	20	1	3	7	15	16	18	23	24	25	28	29	31	32	33	35	41	45	48	51	53	56	57	59	61	65	68	69	75	77	78	81	83	87	88	23
1	3	11	12	13	14	6	7	8	12	14	12	14	26	27	40	2	4	5	6	8	9	10	13	14	17	20	27	34	42	44	46	49	50	52	62	67	72	76	85	86	78	85	86	28						
計	4	5	6	16	18	2	3	9	11	13	1	3	4	6	8	11	12	22	26	36	21	27	32	33	34	37	38	39	40	43	47	60	63	64	66	70	71	80	82	46										
0(貢献・阻害共)	10	15	30	42	65	80	82	7	21	74	79																										3													
0(西東全て)	84																																			1														



[一般]



[学生]



[秋・学生]

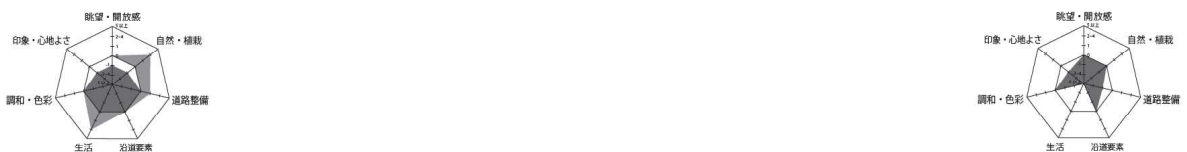


図3 共通する5票以上の地点のレーダーチャート(一般・学生・秋の学生)

表6 レーダーチャートのパターン（5票以上の地点）

		貢献						阻害					
		阻害要素 無し			阻害要素 有り			貢献要素 有り			貢献要素 無し		
		I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
共通	西				8								
	東	2			2(学生)			55(学生)			30		
一般	西	51			77								
	東	79									54		
学生	西	53			1			1					
	東	64			41			74					
秋の学生	西	81			51								
	東	22									19		
	西	20			1			7					
	東	42									58		
	西	43									73		
	東	50									3		
	西	68									34		
	東	80									39		
	西	1									47		
	東	15						13			65		
	西	24						17			73		
	東	40						63			2		
	西	70						88			53		
	東	84									72		
											81		

チャートを前述の I) 自然系 II) ハード・人工系 III) ソフト・感性系の 3 軸と組み合わせると 7 パターンになり、その他に西 1 など特徴的なものも浮かび上がった(表 6)。

I から III に分類するにあたり、プロット 2 以上のものは強い傾向を持つと考えて対象とした。

3.4.2. 一般と学生の比較

一般は 0 票の地点も多く、やや集中傾向があるが、学生は他者との違いを意識してか分散傾向にある。また、細部に反応しており、幾分厳しいともいえるが、素直で敏感な反応と思われる。

3.5. 連続性の検討

連続性に関する検討を行うために、地点ごとの票数によるグラフを作成した(図 4)。また、キーワードの一般と学生の計によるダイアグラム(図 5)を作成し、秋も同様に作成した。

3.5.1. 貢献要素の連続性

グラフの 3 本のラインからは、貢献が続いて阻害がない箇所や連続性の概略が把握できる。また、途切れている箇所や問題の多い箇所が一目瞭然となることにより、何を減らして何を追加するべきかを示唆している。

一般は、学生に比べて 0 票の箇所も多く、やや集中傾向がある。

ダイアグラムに要素の 2 ～ 4 以上が 3 地点以上続く箇所にマーキングした。貢献要素では西向きの 7 - 9、39 - 41、51 - 53 と東向きの 36 - 39、46 - 52、63 - 65 であるが、間の地点の要素が変更することで連続性が高

まる。例えば西向きの 74 - 81 などが該当する。

阻害要素は西向きでは連続しておらず、これは西向きの結果が良い要因のひとつである。東向きは 13 - 15、30 - 33、53 - 59、67 - 69 が連続している。また、0 が 3 地点以上続く箇所もマーキングすることにより、逆の視点から気づくことも促せて、連続性を高めるために必要な改善すべき課題を示唆している。

秋のダイアグラムはやや分散しているが、貢献要素では西向きが 7 - 9 で、阻害要素では東向きの 53 - 55 が連続している。

3.5.2. 季節の比較

秋の学生の結果をグラフやダイアグラムで比較して、季節の比較を行った。秋は沿道の果樹園が実りの時期を迎えて色彩も華やかになり、視覚と共に味覚への情報も貢献要素に影響を与えている。また、日照角度の季節差による沿道の樹木の影が、夏は好ましく感じて冬に向かうと寒く暗く感じるというように、同じ事象であっても貢献要素と阻害要素が入れ替わる場合もある。

3.6. 南北の検討

秋の撮影では、歩行者が安全のために左右確認するために視線を巡らし、時にはしばし滞留する十字路や丁字路については南向き 25 カ所と北向き 29 カ所も撮影した。この南北計 54 カ所については、参加者の負担を軽減するために、理由は書かずに 3 カ所ずつ選び付箋のみを貼った。図 6 は貢献と阻害で各 5 票以上を集めた 14 箇所である。理由(キーワード)を書かないことが素直な

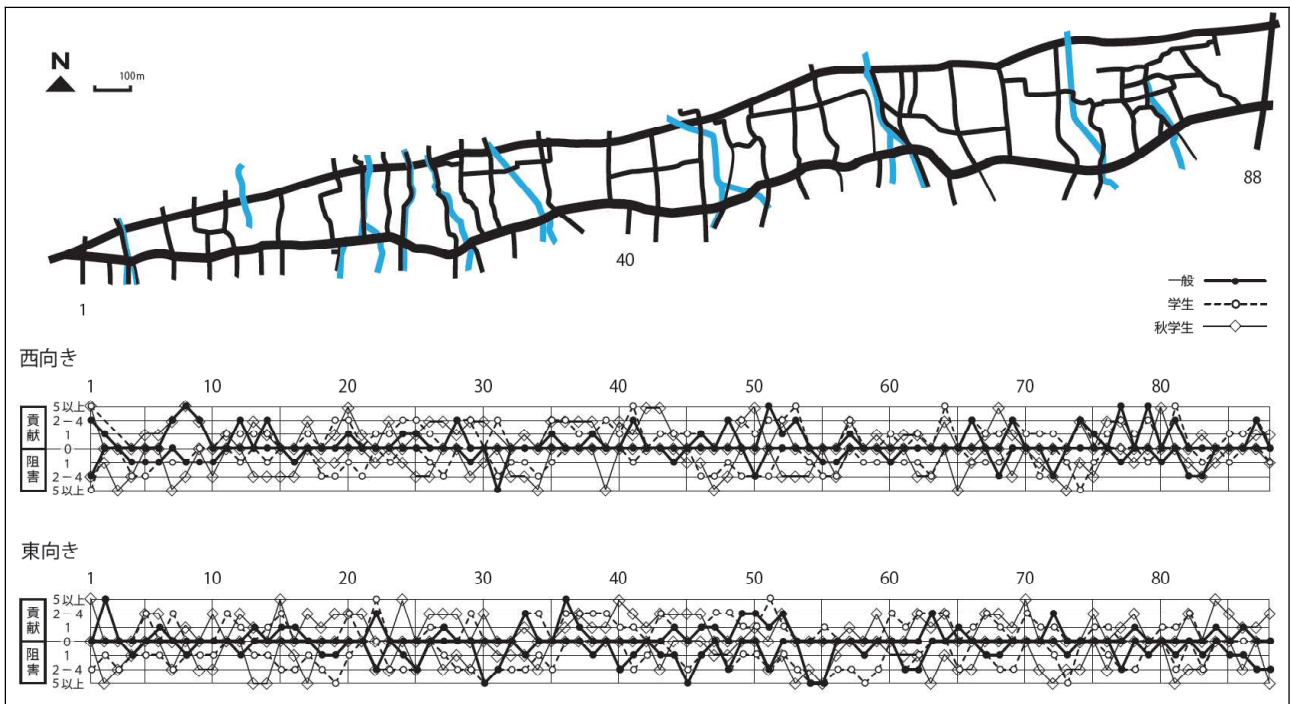


図4 地点ごとの票数グラフ

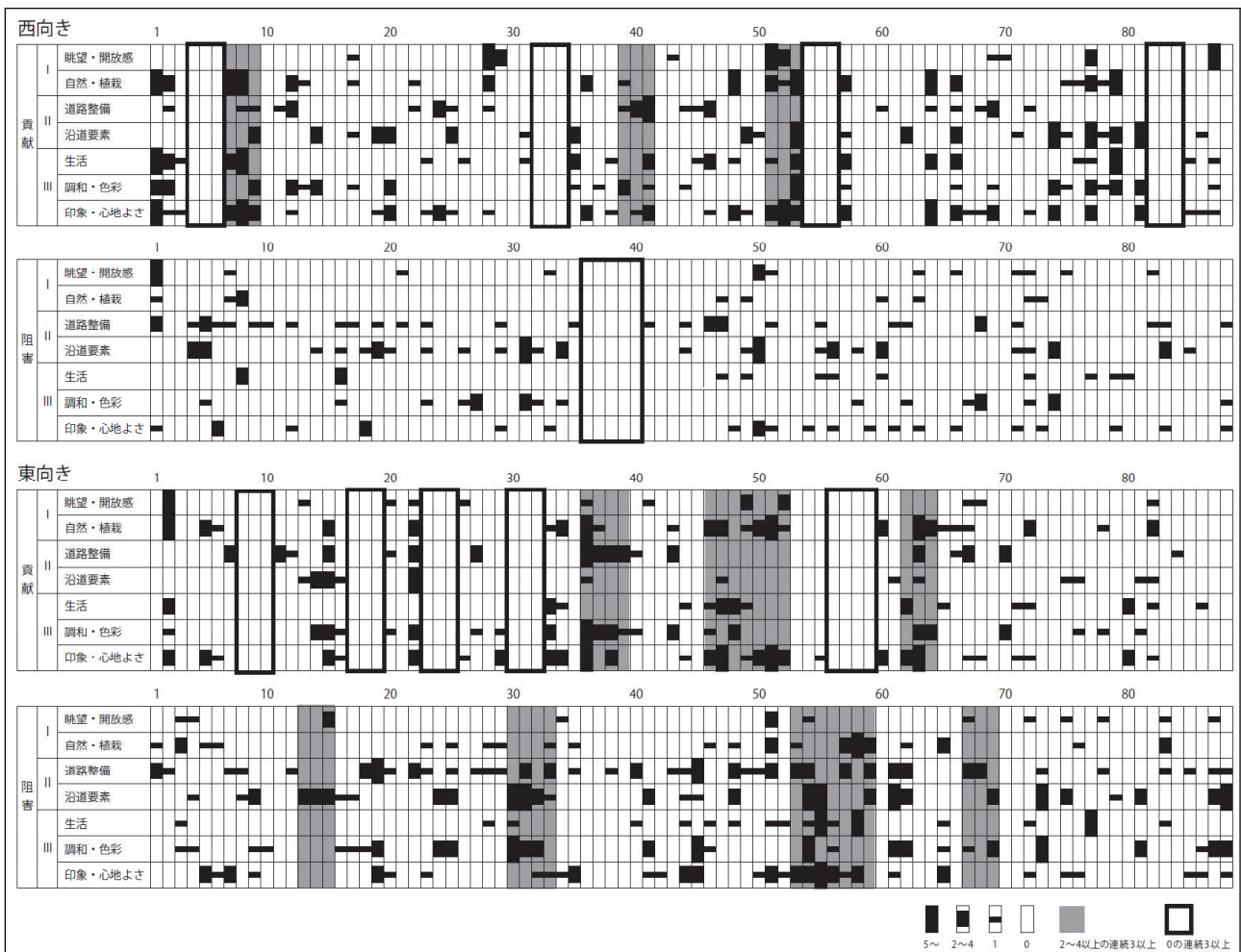


図5 キーワードの分類によるダイヤグラム(一般と学生の計)



図6 南北の5票以上の地点

回答につながったとも考えられて検証にもなりえた。地形は南から北へ緩やかに下っており、幅員方向に比べて視線が沿道景観に添っているのが理由が特定されやすい構造であった。また、角地の利用状況も影響を及ぼす。

加えて、東西の例から理由の推測は十分行えるが、禁止サインや放置されて錆などがでているメンテナンス不足のものや、異質なものと突出した色彩の混在が阻害要素となっている。また、貢献要素は、まとまりと調和や眺望の良さや人の手が入ったエイジングを感じる石垣などである。

4. 考察と提案

4.1. 貢献要素の種類と課題

生活景に着目して、III) ソフト・感性系(⑤生活⑥調和・色彩と⑦印象・心地よさ)の貢献要素の有効性を明らかにすることができたが、写真による再現には限界が

あり、実際に歩くことで実感する様々な音(サウンドスケープ)や香りといった視覚以外の五感で受ける貢献要素も加える必要がある。また、沿道景観に生活景の出現頻度が高いことは、感受性に豊かな刺激を与えることに繋がる。

良好な景観形成には、機能や整備と共に感性や感情を満足させることが重要で、共有感覚として今後基準化を目指す仕組みを考えることが望まれる。

4.2. 汎用型カテゴリの検討

分類や分析を詳細に検討することで明らかになるものは多いが、ワークショップなどでその時間内に結果を共有するには、秋に実施したような簡略化した方法も有効である。事例を蓄積することで、選択理由を記入しない場合も容易に先行事例にあてはめて分類できる方法の提案が課題であり、今後引き続き精査したい。

また、今回のパターンをさらに整理して例えば座標軸

化することにより、わかりやすいモデルを提示できる可能性がある。さらに、地域の特徴によってカテゴリ一名の入れ替えができるような準備も必要となる。

4.3. 貢献要素の視覚化の可能性

視覚化することで連続性を高めるための課題も明らかになり改善策を導くことも容易になるので、ワークショップなどの有効な手段となりうる。今回はモノクロにおける可能性を探ったが、識別のために色彩を活用して印象の強さを深めたい。

4.4. 貢献要素の連続性への提案

連続性が途切れると空間のまとまり感は低くなるので、貢献要素に関しても、隣接する阻害要素を縮小することにより要素間の対比を平均化することが重要である。それと共に、貢献要素にあふれるボリュームゾーンを創出するための拠点づくりも有効である。現在の貢献要素を基にして少しずつ音量を上げるように貢献要素の種類や量を増やすことは比較的取り組み易い方法である。

また、時間の連続性として、季節による豊かな変化は魅力の重要な一因と考えられるので、年間を通したスケジュールの作成などにより効果的な企画を掘り起こしたり創出することができる。夜間の演出を考える場合も、地域の特性を反映した足元からの発想が期待される。

さらに、日常の風景として生活景の一部となっている果樹園の防虫ネットなどは、交換時には景観配慮型の色彩を用いた製品使用が望まれる。景観の広範囲を占めるものほど阻害要素が貢献要素へ大転換する。

沿道景観の貢献要素を考える際にも、私たちが古来持ち合わせていたハレとケの感覚と処し方は多くの示唆を与えてくれる。

謝辞

ワークショップ形式のアンケートに、国土交通省四国整備局主催「景観法・歴史まちづくり法活用勉強会」参加の皆様と愛媛大学の学生諸君に協力いただきました。また、愛媛大学教育学部芸術文化課程造形芸術コース 4 回生 上岡千恵、大江しおん、金田瑠衣、松井紫帆、渡辺順子さんの協力を得ました。ここに記して感謝します。

なお、本研究は JSPS 科研費 24531139 の助成を受けたものです。

注

- 1.沿道景観の貢献要素に関する考察／愛媛大学教育学部紀要 60 巻／ p291-298 / 2013
- 2.パブリックデザインと沿道景観要素の関係に関する研究／愛媛大学教育学部紀要 59 巻／ p275-283 / 2012
- 3.生活景 身近な景観価値の発見とまちづくり p24-26 / 社団法人建築学会編／学芸出版社／ 2009
- 4.来て見てん山苞の道／山苞の道・景観継承の会 山苞の会 NPO 法人みのう地域循環デザインセンター／ 2008
「平成 19 年度全国都市再生モデル調査事業・地域資源を活かしたまちづくり」事業により作成
- 5.都市・建築の感性デザイン工学 p67 / 日本建築学会編／朝倉書店／ 2008
- 6.公共沿道空間の構成と歩行行動の関連性-ストリートアメニティ形成方法に関する研究(2)／千代田憲子・森田昌嗣／デザイン学研究第 51 巻 2 号／ p40 / 2004

参考文献・資料

- 1.風景の思想／西村幸夫 伊藤 毅 中井 祐 編・編著 / 学芸出版社 / 2012
- 2.文化的景観 生活となりわいの物語り／金田章裕 / 日本経済新聞出版社 / 2012
- 3.美しい日本を創る / 美しい日本を創る会 編著 / 彰国社 / 2006
- 4.西村幸夫風景論ノート 景観法・町並み・再生 / 西村幸夫 / 鹿島出版会 / 2008
- 5.地域イメージを活かす景観色彩計画 / 日本カラーデザイン研究所 / 学芸出版社 / 2008
- 6.市民のための景観まちづくりガイド / 藤本英子 / 学芸出版社 / 2012
- 7.生活景 身近な景観価値の発見とまちづくり / 社団法人建築学会編 / 学芸出版社 / 2009
- 8.都市をつくる風景 「場所」と「身体」をつなぐもの / 中村良夫 / 藤原書店 / 2010
- 9.都市・建築の感性デザイン工学 / 日本建築学会編 / 朝倉書店 / 2008
- 10.公共沿道空間の構成と歩行行動の関連性-ストリートアメニティ形成方法に関する研究(2) / 千代田憲子・森田昌嗣 / デザイン学研究第 51 巻 2 号 / p39-48 / 2004
- 11.季刊ランドスケープデザイン 84 / p054-056 / マルモ出版 / 2012